

令和8年度

大野小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎・基本を確実に定着させ、わかる喜びを実感できる授業の実践
- 児童が思考を巡らせ、表現できる授業の実践

校長

宮越 千佳

学力向上推進員

松本 裕美

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観、校内研究授業、全教員での報告会を行うなど、様々な機会を捉え取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○タブレットの学習アプリを用いた学習に親しみ、隙間時間もドリル学習に取り組むことができている。</p> <p>●長い文章を正しく読み取ったり、多くの課題を時間内に終えたりする力には個人差が大きい。</p> <p>●漢字の定着にやや課題がある。</p> <p>●計算問題を解くことはできるが、その考え方や式の意味を正しく理解できていない。</p>	<p>(低)基礎基本の定着を図り、単元テストの正答率を8割にする。</p> <p>(中)計算や漢字などの基礎的な知識・技能を正確に使い単元テストや漢字スキルの正答率を8割にする。</p> <p>(高)基礎・基本の定着と読解力を身につけ、活用することができる。</p>	<p>(全)「あわすた」を活用し、語彙力や要約力等の向上を図る。</p> <p>(低)タブレットのドリル学習に取り組む、個々の力を伸ばす。読書や視写をして読解力を養う。</p> <p>(中)小テストを実施し途中経過を見て日々の授業改善に生かす。机間指導を大事にする。</p> <p>(高)ミニテストやフラッシュカード、ドリルアプリ、掲示物などを活用し、繰り返し学習に取りまくることで、確実な基礎・基本の定着をはかる。読書や視写をして読解力を養う。単元間のつながりを整理し、意図的・計画的に習得した知識・技能を活用することができるようにする。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○タブレットを積極的に活用し、ICTを使って考えを表現する機会が多い。</p> <p>○各教科や学級活動等で、児童同士で話し合う活動を行っている。</p> <p>●示されたデータや文章、実験の結果等から考察し、自分の考えを表現することに課題がある。</p> <p>●タブレットを用いて情報を整理し、自分の考えを分かりやすくプレゼンテーションすることに課題がある。</p>	<p>(低)自分の考えや意見を自分なりの言葉で表現できる。</p> <p>(中)自分の考えや学んだことを文章や発言で適切に表現できる。友達の意見を聞いて自分の考えを深めたり違いを見つけたりできる。</p> <p>(高)課題を解決するために協働的な学習に取り組むことができる。適切な言語活動により表現することができる。</p>	<p>(全)考えや思いを巡らす場面を設定し、学年に応じた表現力を身につけさせる。</p> <p>(低)朝の会や帰りの会等で自分の考えや意見を発表する場を設ける。ペアトークやグループ活動などを取り入れ、話し合い活動を活性化させる。</p> <p>(中)どの教科でも児童の意見を文章でまとめたり発表できる場を設定する。根拠をもって自分の考えをタブレットやノートにまとめさせて伝えるように指導する。</p> <p>(高)プレゼンテーション学習、話し合い活動、調べ学習などの協働的な学習を通し、習得した知識・技能を活用できるような学習場面を授業内に週3回以上確保する。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○約90%の児童が「学校が楽しい」「授業の内容を聞いて理解している」と感じている。(全学年)</p> <p>○「各教科の学習は大切である」と認識している児童の割合は、全国・県平均より高い。(5・6年)</p> <p>●家庭学習時間や読書時間は全国・県平均を下回っている。</p> <p>●各教科の学習を実生活に生かすことができていると実感できる児童の割合が低い。</p>	<p>(全)家庭学習として、宿題と次の日の準備を行うことができる。</p> <p>(低)望ましい学習態度を身につけ、進んで学習に取り組むことができる。</p> <p>(中)どの学習に対しても前向きに捉え積極的に学習に取り組むことができる。</p> <p>(高)課題をつかみ、自分に必要な学習内容や方法を選択でき、自己の学びを調整できる。</p>	<p>(全)宿題カード・生活チェック(Excel)を学年に応じて活用し、学習や生活について児童が毎日記録し、振り返る。</p> <p>(低)①始業までに学習準備を整え、チャイムスタートできるようにする。②聞く態度、発表の仕方を徹底する。③具体的事物に触れる活動を多く取り入れ、実物を見たり触ったり等児童の主体性を高められるようにする。</p> <p>(中)各授業の導入を大事にして学ぶ楽しさや面白さを共有し実感させる。児童の考えに対してフィードバックを行い次の学習につなげる。</p> <p>(高)学習内容と実生活と関連のあるような宿題に取り組めるようにする。学習内容と実生活の結びつきが分かる授業を展開する。振り返りを書かせる時間を確保する。</p>			